

柴山 哲治 [AG ホールディングス賞]

富井 弥樹 (秋田公立美術大学)

住吉 慶太 [住吉慶太賞]

竹田 一紀 (羊画廊)

「一見猫のようだが実は人。」  
という絵でした。セーターを着て立っているのは、明らかに猫なのですがその眼差しが人なのです。  
何とも不思議な感覚になりました。

住吉 さやか [ALSA 大賞]

早川 祐太

一生懸命に登っているようにも、だらんと垂れ下がっているようにも見えて、とてもかわいく、一目惚れしました。  
i am youというタイトルの意味をお伺いしてみたいです。

小池 一子 [小池一子賞]

二藤 建人

普段は体育館として使われている2021アートフェアの「Selection-GYM」。入場してすぐの空間で見なれぬ光景を私は見た。  
女の子が一人、別の女の子の上に立っている。たくみに構築された木枠の構築物(ただけど簡単に見える)があり、上の子はその数ステップを登って下の子の突き出している足の裏に乗っている。下の子はマットなどで保護されカーブのある台に頭を下に、いわば逆さまに足を上げて寝ている。二人は小さな足の裏をピッタリ合わせて合体する。上の子は木枠から手を離して笑っている。  
小さな冒険者たち、この信頼感、この生き物たちの姿。これはなんなのだ。  
これは何なのだと言えるものは新しいアート、と大きく括っている私はその場で釘付けになる。大人がその後も同じことをして、足裏の信頼カップル “私たちは楽しそうに順番をかえて試みていた。  
これは人間を知り、人間を試し、人間を信じるパフォーマンスアートの極地。  
どの地での国際展でも通じる人間共通の言葉、身体表現としてのアートがここで生まれている。  
木枠の後ろにドロ잉があり、この構想の原点が描かれていた。  
その一枚を求めた私に作家はニコッと「あれ、いいですね」と笑った。

小野 道生 [小野道生賞]

銀ソーダ (Gallery TK2)

展示区画の壁一面にいろいろな色が躍動しているのを眺めている時に、絵の好きな部分を自由にフレーミングで切り取ってそれを改めて作品に仕立てるのだという企画を伺いました。試みにフレームを作品に当ててみたところ、まったく違う絵(というか光景というか)が次から次へと現れては去っていきます。そのさまに圧倒されながら、とにかく惹き込まれました。無限の可能性が移ろう中で「これだ」という瞬間を捕まえようとしている時間は、小さな幸せと戯れ続けるような夢中の時間でもありました。あの時に見つけた一瞬と再び会えるのがとても楽しみです。

金子 未弥 (Gallery TK2)

深みのある緑色の画用紙に描かれた繊細かつ躍動感のある木立とその中を奥へと続く小径。踏みしめた土の感触や辺りのひんやりした感じも伝わってくるその風景に挿し込まれた白い円環と直線の浮遊感。ずっと見入っていました。マインドトレイルという展覧会のために描かれたドロ잉だそうなのですが、まさにこの小さなドロ잉に立ち現れた風景の中を心が何度も行きつ戻りつしていました。実際の展覧会を体験できなさそうなのは残念ですが、でも、いつでもこのドロ잉の中にそっと踏み入って心をつと解き放つことができるのです。

松下 憲史 [トリマツ賞]

松本 玲子

ますますのご活躍、期待しています。

森下 泰輔 [アートラボで賞]

土谷 紘加

アイロンビーズを使ったシリーズCOLORNY (カラニー) はビーズの配置・色の選択・熱の当て具合で制作されるが、プラスチックの固有色が今日のであり、その組成は、原理としてのデジタル=ピクセルを想起させ。新たな物体を作り出している。

深井 桂子 [Keiko Art International 深井桂子賞]

竹岡 健輔 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

ガラス棒でフォルムを作る独自の技法を探索する姿勢。  
また、柔らかさと、動きのあるフォルムの作品に将来性を感じた。

須川 和也 [粋な神田で賞]

澄 毅

作家の執念を感じる密度の高いドロ잉です。写真からアート作品の制作を始められたとのことですが、ドロ잉も素晴らしいと思いました。早速自宅の壁にかけて楽しんでおります。

杉田 良和 [杉田良和賞]

村田 言恵 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

今回は子供にプレゼントしたいアート作品というテーマで選ばせていただきました。素敵な作品が多くありましたが、その中で村田言恵さんの砂糖菓子のような陶磁の作品はとても表情が柔らかく、子供にプレゼントするのにぴったりでした。これからも村田さんのご活躍を楽しみにしています！

石鍋 博子 [石鍋博子賞]

千葉 大二郎 (eitoeiko)

彼のマルチな才能に注目している。

川村 喜久 [川村文化芸術振興財団賞]

藤幡 正樹 (NFTとアートのこれから「符号理論 / Coding Theory」)

O JUN (Gallery KIDO Press)

藤元 明 (KANA KAWANISHI GALLERY)

安瀬 英雄 (KANA KAWANISHI GALLERY)

五嶋 穂波 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

齋藤 みどり (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

荻野 由梨 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

船山 雅史 [船山賞]

村上 早 (コバヤシ画廊)

いつも注目しています。解説が難しいけど、傷みの記憶が心に残ります。

李 晶玉 (Gallery Q)

淡いブルーとオレンジの対比が李さんの国と日本の相克を想起させる。